Ⅱ 高校歴史の教科構造の問題点

――日本史・世界史の関係を中心に――

都　築　　亨

要　旨

高校における日本史・世界史が互に密接な関連をもつ内容を含みながら，その教科の構造はそれぞれ独自の論理でかためられている，しかもその論理は科学の論理に純粋に立脚しているとも，教育の論理で貫かれているともいえない。これを統一する論理が歴史教育の現代化を考える場合に必要であろう。

1.　意図と問題の所在

歴史教育は内容教科として変容されにくい教科であり，したがって現代化の視点に立ってみた場合，もっとも現代化されにくい教科の一つである。

しかし，戦後の教育課程が改訂されてきたプロセスのなかで，歴史教育がつねに焦点に立たされてきたこと，そして家永訴訟の問題をもふくめて教科書問題という形であらわれているのがまさしく歴史教育の内容に関することがらであったのは，歴史教育が実は教育全体のイデオロギー的側面を代表しているからであろう。区々たる学習内容の改訂が，実は教育ないし教育的立場の重大な変更を意味する場合は多いのである。

その歴史教育の内容を時代の進展・技術革新の動向に即応させて改編し，現代化してゆくためにはどうしたらよいだろうか。

科学技術の革新と高度成長，そして大衆社会状況が進行しつつある現在の状況において，20年前と相もかわらないような（そして場合によれば明治からかわらない面をもっている）歴史教育をすすめてゆくということは「社会的要請」の面からみても，又「生徒の時代意識」の面からみても，無意味に近いことではないだろうか。

2.　日本史・世界史の教科構造現代化の視点

歴史教育の方法や内容が戦後において全くかわらなかったのではない。部分的にはかなり改められてきたこともたしかである。たとえば，

- 体系とくに世界史の東洋・西洋の比重構成に関し
- 日本史での経済史・文化史の重視の仕方について
- 世界史の主題学習について

にもかかわらず，歴史が教科構造の面でなおかつ不満を感じさせるのは，

(1)　内容の羅列性・多岐性

科学的系統と教育的系統とが混在し，羅列的に事項をならべるだけであり，又受験対策として不必要な事項を入れすぎている。

(2)　政治・経済・文化の同時代的関連の欠如

政治・経済・社会・文化の配列がバラバラで，相互の関連・からみあいのもとに歴史が動いてきたという把握がされにくい。

(3)　科学・技術史の欠如

科学・技術の発展について内容が乏しく，又故意にその点にふれるのをさけている。歴史的発展がこれらの条件をのぞいた形で説明される。

(4)　日本史・世界史の関連

現在二つの科目が併行して進められるのに相互の関連が乏しい。

(5)　現代史の軽視

歴史教育論としては現代史中心が主張されながら，現実の場では時間の都合で教えられない。

これらの問題点を解決し，歴史を教科構造の面から現代化するにはどのような視点が必要だろうか。

①　教科の知的構造，科学的系統

歴史教育は〝げんみつに歴史学に立脚し，正しい教育理論にのみ依拠すべきである〟といわれるし，少くとも戦前の国史にみられたような学問と教育の背離があってはならない。しかしとくに世界史の場合，歴史学的には世界史の体系は成立していないし，日本史の場合には逆に教育の理論によって「現代化」されにくい面をもっている。

戦後歴史学の成果をとり入れるとともに，新しい体系による教科構造を考える必要がある。

②　科学史・技術史的内容

科学技術の進展に即応した内容を加えるとともに，歴史の進歩発展の中での科学・技術の果した役割りを確認し，歴史の下部構造の一環に技術をおく。

③　内容の精選と中学への内容のスライド

著るしくふくれ上ってきている歴史の教育内容をカットすること，とくに，羅列的事項に属する美術史的・文学史的，考古学的内容あるいは日本の現代の立場からみて関連のうすい世界の地域的記載。

そして一方では，高校で扱われている内容を中学に移行することによって，高校での歴史の内容を縮少することも考えてよいのではないか。

高校の進学率が80%に達してきた現在，小・中・高のそれぞれのワクの中で内容を考えるのは時代遅れであり，一貫して考えるべきだし，小・中・高でそれぞれ，日本史も世界史も一通りすまさねばならぬという前提は無意味であろう。

念のために附言すれば，中学の二年生で，世界史と日本史とを一つにからませた歴史を指導するのも不都合であり，むしろ中学では，日本史と世界史（特に近代に重点をおいた）を分けて学習させる方が効果的ではないかと考えている。

④　日本史を包括する世界史の構成

したがって高校では，世界史を主軸においた歴史の構成を考え，その中に日本の歴史を位置づけること。

◦古代の日本の歴史的発展はつねに大陸文化の影響をうけ，中国とのかかわりあいの中で行なわれてきたし，間接的にはインド，西域の影響をうけてきた点

◦東洋の歴史的比重を大きくするということは，日本の立場においてであるという見方

◦西洋の近代文化，政治原理，資本主義の発展についての究明は，日本の近・現代にかかわりをもつ故に重要だという点

◦現代においては，まさしく世界史がなり立っており，世界史的視野を欠いた日本の記述や，日本の現代的立場からはなれた世界史は無意味であるという視点が要求されるからである。

3.　一つの試案

以上の観点の上に〝歴史〟の統一的プランを構成してみると次のようになる。ただしこれは，現行のカリキュラムの批判の上に本校の研究協議会で一つの仮説の提起し，それについての大方の批判をふまえて，かなり大巾の修正を行なったプランであり，なおいろいろの問題点をふくむものであることをことわっておきたい。

単元	学習内容		P	T	加えるべき事項	除くべき事項
第一部 原始古代文明の発展	Ⅰ先史時代	1.原始人類と現世人類	×	○	日本の旧石器時代人	人種言語民族
		2.農耕牧畜の起源と新石器文化	×		食物の革命　農耕牧畜	ムスティエオーリニヤク文化
		3.日本の石器時代			無土器文化	マドレーヌ文化について
	Ⅱ古代文明の発生	1.オリエント文明の発生	○	○	農業・金属・文字の役割	シュメール国家
		2.インダス文明と黄河文明	×	○	青銅器文明について	アメリカ古代文明については後にふれる
	Ⅲヨーロッパ古典古代	1.ギリシヤにおけるポリスの形成	○		自然哲学・自然科学	
		2.アテネ民主制とギリシヤ古典文化		○	政治生活と文化との関連	ドラコンの法など
		3.アレクサンダー帝国とヘレニズム			自然科学のめばえ	アレクサンダーの東征については簡単にする
		4.ローマの地中海支配と帝政成立	◎	◎	大土地所有制の展開	ポエニ戦争の経過よりは後の影響に重点
		5.ローマ文化				
		6.キリスト教と古代末期		◎	ユダヤ教との関連	
	Ⅳ東洋古代国家の成立	1.インド古代帝国の成立と仏教		×		ウパニシヤッド哲学
		2.周代中国の変化と古代思想		◎	鉄文化の社会に果した影響	ドラヴィダ系諸国
		3.秦漢帝国		○	匈奴（冒頓単于）朝鮮	五覇七雄
	Ⅴ大陸文化と古代日本	1.弥生文化と農耕技術の伝来	×	◎	弥生文化と大陸との関係	
		2.三国・南北朝		×	中国文化の南遷	
		3.邪馬台国			漢書　魏志	

単元	学習内容		P	T	加えるべき事項	除くべき事項
第二部 東アジア世界の中での日本	Ⅰ大陸の動き	1.隋唐帝国とその文化	○	○	周辺諸国家	
		2.唐末五代	×			
		3.宋代中国と北方民族の国家		○	高麗王朝	靖康の難，完顔部阿骨打
	Ⅱ大和国家	1.大和朝廷の成立			騎馬民族説	古墳埴輪は中学で
		2.聖徳太子と飛鳥文化	○	◎		
		3.大化改新と律令制・天平文化	◎	○	遣隋使，遣唐使の果した役割	鐘匱の制　八色姓
		4.平安遷都と平安初期の文化		◎	薬子の変　令外官　承和の変	
	Ⅲ貴族政治とその衰退	1.荘園と武士	○	◎	荘園と国衙領の構造	
		2.摂関政治と国風文化	◎	○	安和の変　9～10世紀の転換期としての性格	六歌仙，作品を代表的なものに限る
		3.院政と平氏政権，平安末期の文化		◎	知行国制	鹿谷謀議　源平合戦
	Ⅳ武家社会の形成	1.武家政権の成立	◎	○	大犯三ケ条　幕府の経済的基盤	
		2.執権政治と鎌倉時代の文化		○	和田合戦　商業の発展	
		3.蒙古襲来と元帝国			元帝国の成立 全真教 元代の東西交渉　得宗専制	
		4.鎌倉幕府の滅亡				宮将軍
	Ⅴ武家政治の展開	1.南北朝争乱	○	◎	両統迭立　観応騒乱	中先代の乱
		2.室町幕府の守護大名	○	○	明徳応永の乱　北山文化	
		3.経済の進歩と東山文化	○	○	応仁の乱　朝鮮との交渉	
		4.戦国大名と領国支配			分国法	戦国大名の抗争　合戦
第三部 イスラム世界とヨーロッパ世界	Ⅰイスラム世界の形成	1.アラビアとイスラム教		○	マホメット出現前のアラビア	
		2.サラセン帝国とイスラム文化	○	○	イスラム文化での自然	
		3.トルコの発展とインド		×		
	Ⅱヨーロッパ世界の形成	1.民族大移動とゲルマン国家の発展	◎	◎	ノルマン	ユーグカペー朝
		2.封建制度と荘園制	○	◎	農民の負担　騎士道	コムネノス朝プロノイア制
		3.カトリック教会の権威と王権	○	◎	東ローマ帝国との関係	普遍論争は倫社にゆずる
		4.中世の文化				
	Ⅲ十字軍と中央集権国家	1.十字軍		○	十字軍と商業資本	
		2.中世都市の発達			十字軍以後の商業貿易の発展	
		3.中央集権国家の成立				バロア王朝金印勅書
	Ⅰ近代ヨーロッパの成立	1.地理上の発見		○	マヤ・アズテック文明を簡単に	コロンブスマゼランは中学で

単元	学習内容		P	T	加えるべき事項	除くべき事項
第四部 近代市民社会の形成		2.ルネサンス	◎	◎	技術，天文学の諸発見	
		3.宗教改革	◎	◎	農民戦争　カルビニズム	
	Ⅱ近代国家の成立	1.宗教戦争	○	◎		ワレンシュタイン
		2.ヨーロッパ絶対主義	○	◎	第一次囲いこみ	フロンドの乱
		3.重商主義と植民地		◎		
		4.東欧絶対主義国家		×	ユンカー	
		5.近代文化と近代思想		◎	自然科学と合理主義	スピノザライプニッツの哲学
		6.イギリス市民革命	◎	◎		
	Ⅲ市民革命と産業革命	1.アメリカ合衆国の独立革命	○	◎	諸外国の支持武装中立同盟	
		2.フランス革命とナポレオン	◎	◎	財政改革　立法議会	
		3.産業革命	○	◎	第二次囲いこみ，技術的発明	
	Ⅳ市民社会の展開	1.ウイーン体制とその崩壊	○	○	カニング外交	
		2.七月革命と自由主義		○	イギリスの自由主義改革	
		3.二月革命と第二帝政	○	○	六月蜂起　三月革命	
		4.イタリア・ドイツの国民主義		×	社会主義運動とその弾圧	
		5.ロシアの近代化と米・南北戦争		◎	ジャクソニアン・デモクラシー	
		6.イギリスの繁栄とフランス第三共和政		○	第一インターナショナル　パリ・コンミューン	
		7.市民文化の成熟		○		文芸哲学の諸作品
第五部 アジア的世界の成	Ⅰ東アジアとイスラム世界の変遷	1.明の統一と永楽帝		○		
		2明代の社会と文化			明代の実学	
		3.ヨーロッパ人のアジア来航			ザビエル鉄砲の伝来	
		4.清朝の成立と清初の社会		○	三藩の乱	チベットラマ教は簡略に
		5.イスラム世界とムガール帝国			チムール帝国　両班	チヤム族パガン朝マリ朝
	Ⅱ近世日本の統一	1.全国統一と桃山文化		○	対外発展，明との外交	
		2.幕藩体制の成立と鎖国の完成	◎	◎	地方知行制　糸割符制	大阪の陣
		3.江戸時代の産業経済の発展		◎	都市の繁栄　農学実学	
		4.元禄文化と町人の力		○	家綱期の文治政治　貞享暦	
	Ⅲ封建社会の動揺	1.幕政の推移と三大改革	◎	◎	田沼意次の積極政策	
		2.町人文化の成熟―大江戸文化		◎		
		3.新しい学問と思想	○	◎	玄沢芝蘭堂　暦象新書　洪庵適々斉塾	

単元	学習内容		P	T	加えるべき事項	除くべき事項
熟	Ⅳ	4.天保の改革 アヘン戦争と太平天国		◎	各藩の藩政改革 列強の東洋進出	
第六部 アジアの近代化と帝国主義	Ⅰ明治維新	1.開国	◎	○	阿部正弘の改革	
		2.江戸幕府の滅亡	◎	◎	イギリス・フランスの役割	
		3.明治維新と新政府の諸政策	○	◎	外交国域問題も	
		4.自由民権運動	◎	◎	私擬憲法	飯田事件　高田事件
		5.帝国憲法の制定	○	○	華族制度　皇室財産	
		6.西洋文化の吸収と近代文化		◎	国粋主義　政教社　民友社	
	Ⅱ近代日本の海外発展	1.条約改正	○	○	大津事件	
		2.朝鮮進出と日清戦争		◎	京城の変（壬午甲申）	日清戦争の経過省略
		3.資本主義の発展と政党		◎	治安警察法政友会の成立	
	Ⅲ帝国主義	1.帝国主義の開幕	◎	◎		
		2.アフリカ・太平洋の分割				
		3.列国の中国分割・北清事変		◎		
		4.日英同盟と日露戦争		◎	国際関係	
		5.辛亥革命とインドイスラム民族主義		○		
		6.日露戦後の日本と近代文化	○	◎	韓国併合	
		7.大正の政変			ミーメンス事件	
第七部 現代世	Ⅰ第一次世界大戦	1.大戦前の国際関係と大戦勃発	○	◎	石井ランシング協定	
		2.ロシア革命とソビエトの成立	○	○	シベリア出兵	
		3.米騒動と民本主義	○	◎	好景気　黎明会	
		4.ヴエルサイユ体制と軍縮会議		◎		セーヴル条約，ローザンヌ条約
	Ⅱ国際協調	1.戦後のヨーロッパ		○		
		2.インド中近東中国の民族運動		○	中国共産党結成国共合作 バルフォア宣言	ラッパロ条約　ヨルダン ワフド党　シオニズム
		3.日本の社会運動と市民文化	○	◎	第二次護憲運動　普選	
		4.中国革命と幣原外交	○		5.30事件	
	Ⅲ世界恐慌とファシズム	1.金融恐慌と積極外交への転換	○	◎	枢密院の役割　東方会議 3.15　4.16	
		2.大恐慌と世界各国の対策	○	○	金解禁　米英仏の対策	
		3.ソ連の発展			NEP	
		4.ドイツ・イタリアのフ	○	◎		

単元	学習内容		P	T	加えるべき事項	除くべき事項
界		アシズム 5.満州事変と軍部独裁		◎	西安事件　国民精神総動員令	
の		6.日・独・伊枢軸の結成とフアシズム体制	○	◎		
	Ⅳ第二次世界大戦	1.ミユンヘン会談と大戦の開幕		◎		
発		2.独・ソ戦と戦争の長期化		○		
		3.太平洋戦争と戦時体制	◎	◎		
		4.大戦の終結	○	◎		
	Ⅴ現代の世界	1.国際連合と戦後処理		◎		
展		2.日本国憲法の成立と国内情勢	○	◎		
		3.二つの世界とアジアアフリカ	○	◎		
		4.講和後の日本と世界		○		

注　P　生徒に対する重要度の調査結果
　　T　教生（大学生）の重要とみとめたもの
　　◎　5割以上の者が重要と答えた項目
　　○　3割以上の者が重要と答えた項目
　　×　2割以上の者が不必要と答えた項目

4.　まとめにかえて

内容の精選という点を現代化の大きな軸としながら，実際にはこの試案で内容が縮少されていないことが問題として残るかもしれない。しかし，歴史の流れを鳥瞰するとき，一つの事実なりポイントなりを省いたならば，場合によれば決定的な過誤を招くことがあるかもしれない。その意味では明らかに蛇足とみられる事項をカットするのがせいぜいかもしれないし，未だ足りない点があるかもしれないのである。しかし，日本史・世界史を一つの流れにのせただけで，かなりの時間数と不必要な重複とが救われたと考えている。それはとくに現代史においてそうである。